

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	管理会計論B (Management Accounting B)		
ナンバリングコード	E30607	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 応用レベル 会計ファイナンス
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 後期
必修・選択区分	コース必修: 会計ファイナンスコース 選択: 地域マネジメントコース、Bソリューションコース、スポーツビジネスコース、こども・福祉コース コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E009151	クラス名	-
担当教員名	工藤 順一、橋本 堅次郎		
履修上の注意、履修条件	会計の関連科目をしっかり勉強することが望ましい。そして、できるだけ毎日、新聞を読んで、企業の新製品の開発等の経営関連の記事に目を通してほしいと思います。 将来の就職に備え、実践で活かそうという気持ちで受講してください。就職しますと、どの職場でもコスト削減努力を要求されますので、どうしたらコストを削減できるかを身近な問題として考えるようにしましょう。		
教科書	「稲盛和夫の実学」(日経ビジネス人文庫)「論語と算盤」(ちくま新書)		
参考文献及び指定図書	稲盛和夫著「高収益企業のつくり方」(日本経済新聞社) 大野耐一著「トヨタ生産方式」ダイヤモンド社他 TAC出版「合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記、同1級 工業簿記・原価計算」		
関連科目	原価計算論A・B、管理会計論A、財務管理論		

○基本情報			
授業の目的	2年生までは、簿記や財務諸表論等企業外部の利害関係者向けの会計である財務会計を学習してきました。これらは会計の基礎な知識を身につけるための学習です。3年生からは、これらの財務会計を踏まえた上で、企業内部の経営者を対象とする会計を学びます。 管理会計論Bでは、京セラ相談役の稲盛和夫氏が書いた「実学」というテキストをもとに、稲盛氏が京セラを経営していく上で、会計をどのように捉え、実践に役立てていったかを学習します。特に、理論的に学んだ会計が、実践の場では具体的にどのような使われ方をされているのかをつかんでいただき、実践に役立つような考え方や知識を習得してもらうことを目的にしています。		
授業の概要	テキストに沿ったレジュメを配布しますので、テキストと照らし合わせながら授業を進めていきます。新聞記事やDVD等により、企業に実際に起こっている事例を取り上げながら、会計数値の裏側にある「業務の実態」について読み解いていきます。また、企業がコストを下げるためにはどうすべきかをトヨタ生産方式等で学習します。そうした中で、将来、皆さんが経営者になったときに、経営資源である「ヒト、モノ、カネ、情報」をいかに使い、目標となる数値を達成していくかを考えることが重要です。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「PBL(課題解決型学習)」	
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目		
実務経験のある教員による授業科目	工藤順一氏は、大分県内の100社以上の大分県の経営革新計画の事業計画書作成を支援してきました。また、シニアIMとして多くの企業の創業支援実績。多くの企業の事業計画書作成等に携わってきた経験を、皆さんの専門的・実践的な知識の習得に生かしたいと考えます。利益を上げるためにはいかにしてコストを下げるかをトヨタ生産方式等で学び、多くの企業のコスト低減努力も紹介します。これらの経験を皆さんにわかりやすく説明することで、学生の皆さんが、管理会計を理論的かつ実践的に理解できることと思います。		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	① 将来は、経理の担当者、もしくは経営者として、企業経営を数値で管理することの意味について理解し報告できる。	20点	10点	10点
【知識・理解】	② 会社を数値で管理するための基礎知識が身についている。 ③ 会社を維持発展するための経営上の諸方策について理解している。	10点		
【技能・表現・コミュニケーション】	④ 決算書を見て、その会社の財政状態と経営成績を表現することができる。	10点	10点	10点
【思考・判断・創造】	⑤ 予算編成や事業計画の作成ができる。	10点	10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
講義の最後に授業内容について課題を出すことがあります。課題が課されたら、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。	

○その他	
(この欄は空欄です)	

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	管理会計論B (Management Accounting B)	授業コード	E009151
	担当教員	工藤 順一、橋本 堅次郎		
学修内容				
1. 管理会計と財務会計の相違				
管理会計と財務会計との相違点を学習していきます。会計の2大領域である財務会計との対比を説明していきます。それによって、管理会計の特徴がより明らかになると考えます。管理会計は、主に企業内部の人への情報提供であり、財務会計のように制度会計には縛られない自由な報告となります。				
予習	1年・2年で学んだ財務会計の意義について復習しておきましょう。			(約2.0h)
復習	管理会計の意義について、その対象、会計期間、報告書の書式について復習しておきましょう。			(約2.0h)
2. 京セラ設立時の会計に対する認識				
いよいよ稲盛和夫の実学のテキストに入っていきます、著者はテキストの中で、京セラを設立したときの「会計」に対する認識の欠如を語っています。特に、会計の本質とそこに働く原理原則の欠如について触れています。私たちも、経営における会計の役割を最初にしっかり理解しましょう。減価償却と原理原則による判断については、減価償却とは何かを学習し、次に、企業における減価償却と理論上の減価償却との異同点を学習します。すでに会計の勉強をしている学生には復習となりますが、全く会計の知識がない学生にも分かるように進めるつもりです。				
予習	企業の目的は利益を上げることですが、それだけで良いのか考えてみましょう。			(約2.0h)
復習	経営に役立つ会計とはどのような会計をいうのか復習しておきましょう。			(約2.0h)
3. キャッシュベースで経営する				
キャッシュベースの経営というのは、お金の動きに焦点を当てて、物事の本質に基づいたシンプルな経営を行うことを意味している。会計はキャッシュベースで経営をするためのものがなければならない、というのが稲盛和夫の会計学の第1の基本原則である。キャッシュベースで経営するとは、お金の動きに焦点を当ててシンプルな経営を行うことを意味しています。「配当するお金がなくて、わざわざ銀行から借りてくるというのでは、儲かったといえるのだろうか」という疑問から「なぜレジからお金を持ち出してはいけないか」等キャッシュフローマネジメントの重要性について学びます。				
予習	現金主義と発生主義という二つの考え方の違いを予習しておきましょう。			(約2.0h)
復習	黒字倒産の言葉の意味をキャッシュの観点からまとめておきましょう。			(約2.0h)
4. 土俵の真ん中で相撲をとる(事例の研究)・損益計算書の利益(勘定あって銭足らず)				
ダム式経営と同じ趣旨で、「土俵の真ん中で相撲をとる」というものがある。土俵際ではなく、まだ余裕のある土俵の真ん中で相撲をとるようにする、という意味です。常にお金のことについて心配しなくても、安心して仕事ができるようにすべきだということです。勘定合って銭足らずとは、帳簿上の収支の計算は合っているが、実際の現金が足りないということから、理論と現実とが一致しないということをととえてということばです。				
予習	土俵の真ん中で相撲をとるという言葉の意味を復習しておきましょう。			(約2.0h)
復習	売上を伸ばしても、黒字倒産することがあります。どのような場合か復習しておきましょう。			(約2.0h)
5. 一対一の対応を貫く経営 売掛金と買掛金の消し込み				
管理会計は経営のすべての要素と連動しますが、経営活動においては、必ずモノとお金が動きます。そのときには、モノとお金と伝票が一対一の対応を保つ必要がありますが、実際の経営においては、対応しておらず、これが粉飾につながっていくことを学びます。今回の授業では、売掛金と買掛金の消し込みにおいて、一対一の対応の具体例を学びます。				
予習	取引の中で、モノとお金の二つの流れがあることを調べておきましょう。			(約2.0h)
復習	モノとお金と伝票が一対一の対応を保つとは、どのようなことをいうのか、復習しておきましょう。			(約2.0h)
6. 筋肉質の経営に徹する				
企業は永遠に発展し続けなければならない。そのためには、企業を人間の体に例えるなら、体の隅々にまで血が通い、常に活性化されている引き締まった肉体を持つものにしなければならない。つまり、経営者は、贅肉の全くない筋肉質の企業を目指すべきなのである。稲盛会計学では、そのことを筋肉質の経営安定すると表現している。このような筋肉質経営について学びます。				
予習	筋肉質の経営とは、どのような経営をいうのか予習しておきましょう。			(約2.0h)
復習	身体隅々まで流れる血とは、財務諸表上は何を指すのか、復習しましょう。			(約2.0h)
7. ダブルチェックによって会社と人を守る				
ダブルチェックとは、経理のみならずあらゆる分野で一つ組織の健全性を守る保護メカニズムである。仕事が、公明正大にガラス張りの中で進められるということは、その仕事に従事する人を不測の事態から守ることにある。それは、同時に、業務そのものの信頼性と会社の組織の健全性を守ることにもなるのである。今回はこのダブルチェックのメカニズムについて学習します。				
予習	経費の削減のためには、シンプルなチェックが良いと意見について、あなたの考えを述べなさい。			(約2.0h)
復習	ダブルチェック体制を、保護メカニズムというのは、なぜか？その理由を述べなさい。			(約2.0h)
8. 採算の向上を考える				
売上げを最大に、経費を最低にすることが経営の原則とわかっていても、実行するとなるととても難しい。できれば、経費を減らしながら、売上げを伸ばしていくことが理想です。採算を向上するためには、売上を伸ばしていきことはもちろん、同時に製品の付加価値を高めていかなければならない。採算の向上は、管理会計の問題でありながら、財務会計の課題でもあります。管理会計が、財務会計のどのように関連しているかについて学習します。				
予習	売上を伸ばすことと、経費を下げることで利益にどのように連動するかを予習してきましょう。			(約2.0h)
復習	販売価格とはどのようにして決めるべきであるかをまとめておきましょう。			(約2.0h)

○授業計画	科目名	管理会計論B (Management Accounting B)	授業コード	E009151
	担当教員	工藤 順一、橋本 堅次郎		
学修内容				
9. 透明な経営を行う				
中小企業であった京セラが、厳しい競争に打ち勝っていくためには、経営者と社員との信頼関係が重要です。この信頼関係を築くためには、会社のおかれている現状を、社員に包み隠さず伝えることが大切です。会社の経営状況を伝えるために、稲盛氏がどのような工夫をしてきたのかを学習します。				
予習	透明な経営とはどのような経営をいうのか、考えてみましょう。			(約2.0h)
復習	財務諸表の役割は何か。社員の伝えるためには、どのような財務諸表をつくるべきか、まとめてください。			(約2.0h)
10. 拡大による借入金の増加について				
運送業を営んでいる会社の経営者の質問は、「事業拡大方針を見直しても、借入金の圧縮を図り、会社の体力がさらに充実した段階で、改めて業務拡大を図るべきかどうか」という質問に、稲盛氏が答える形でのやりとりを学習します。結論としては、経費の伸びが売上の伸びよりも低くなるようにすればよいということですが、経費とは、減価償却とは、支払利息とは、といったことを考えながら、この結論に至るまでの考え方について学習します。				
予習	借入金を増やした場合、貸借対照表と損益計算書のどの勘定科目に変化が起こるのか、考えましょう。			(約2.0h)
復習	売上高経常利益率とは、どの利益を指しているのか、復習しておきましょう。			(約2.0h)
11. 渋沢栄一の論語と算盤				
500以上の会社を創業したという、渋沢栄一の管理会計に対する考え方を学びます。論語と算盤でいうところの、論語とは何か、算盤とは何か、この二つとも立てることができるかどうかについて勉強したいと思います。どこか、稲盛会計学と重なるところがあるかどうかを、皆さんに学習してほしいと考えます。				
予習	取引における2つの流れ、モノの流れ、お金の流れについて予習してきてください。			(約2.0h)
復習	2つの流れが対応していない事例をいくつかあげてきてください。			(約2.0h)
12. コスト削減の仕方(5Sについて)				
ソニー、キヤノンなど約300社のカイゼンを指導してきた伝説の経営コンサルタント、山田日登志氏。山田氏が約40年かけて培った手法・手順や、カイゼンで成果を上げる上で不可欠な心構えについて学習します。山田氏の事業におけるコスト削減のDVDを見ながら、具体的なカイゼン事例を学びます。創業においては、なかなか利益がでませんし、売上を伸ばすのも大変です。そこで、いかにしてコストを削減するかを学んでいきましょう。				
予習	損益計算書の費用をいかにして削減するかを、考えてみましょう。			(約2.0h)
復習	コスト削減における5Sをあなたの日常生活にいかに生かすかを考えましょう。			(約2.0h)
13. 単純原価計算の復習				
総合原価計算の一つで、多種製品でなく、同種製品を多工程でなく単一工程で反復連続的に生産する生産形態に適用される原価計算方法。日本の原価計算基準はこれよりも広く、単一工程であろうと多工程であろうと同種製品に関する総合原価計算をもって単純総合原価計算と規定している。				
予習	売掛金の貸倒れが利益にどのように影響するかを予習してきましょう。			(約2.0h)
復習	経理処理の正確さが顧客満足にどうつながるかまとめてきてください。			(約2.0h)
14. 総合原価計算の復習				
総合原価計算の問題を解きながら、減価の計算の仕方コスト削減の方法管理会計の在り方等を学習していただきます。				
予習	固定資産の耐用年数について、その意義をまとめてきてください。			(約2.0h)
復習	耐用年数を超過した固定資産は、破棄すべきかどうかあなたの考えをまとめましょう。			(約2.0h)
15. まとめ 直接原価計算・標準原価計算の復習				
講義を通して管理会計について学んだことのまとめです。健全会計に徹することの重要性を学習します。また、期末試験の試験対象や問題の出し方について説明します。				
予習	2年生で学んだCVP分析について、その意義を再度確認してきてください。			(約2.0h)
復習	CVP分析と売上、コスト、利益の関係をまとめておきましょう。			(約2.0h)
16. 期末試験				
これまで学習してきた内容についてレポートを含めた試験を行います。				
予習	15回目に配布した資料に基づいて、問題を解いてきてください。			(約2.0h)
復習	試験で間違った問題について、再度解答方法を確認しておきましょう。			(約2.0h)